

これからの地域の情報化の推進に向けては、情報通信基盤の整備や情報伝達手段(コミュニケーションツール)としての活用だけではなく、より豊かで安心して暮らせる地域づくりへの視点が重要となってきます。さまざまな情報手段によって、人とひと、人とまちがつながり、互いに見守り、支えあいの輪が広がっていく、このような社会づくりが望まれます。

そのためには、情報化というものをほとんど意識せず、誰もが安心してその利便性を享受できるユビキタス社会の形成が必要であり、そうした社会の実現に向け、地域の英知を結集していかなければなりません。

また、地域間競争の時代にあって、地域のさまざまな課題を解決する手段として活用していくことも重要となっています。電子自治体化の推進による行政運営の効率化はもとより、地域のコミュニティづくりや一人ひとりの暮らしをより豊かで利便性のあるものにするための情報利用環境の充実などに取り組むことが重要となってきます。

今後、本町がこうした情報化の取り組みを推進し、京都府あるいは全国をリードしていく先進的な情報都市に飛躍していくことをめざしながら、誰もが本町に住んでよかったといえる、真の意味での豊かなまちづくりを進めます。

このような情報化の理念を踏まえながら、新たな精華町情報化基本計画において、戦略的かつ計画的に情報化を進めていく上での、めざすべき情報都市像として“人とひと 人とまちを 情報の輪で支えあう 豊かなまち せいか”を掲げます。

さらにこのめざすべき情報都市像を具現化していくための目標を次の3つに設定します。

<めざすべき情報都市像>

**“人とひと 人とまちを 情報の輪で支えあう
豊かなまち せいか”**

< 3つの目標 >

1．住民の生命・人権を守り、生活の質向上に資する情報化の推進

情報化を進めていく上では、第一に住民の生命や人権を守っていくという視点が重要となってきます。住民の暮らしの安全や安心を支える手段としてITが活用されていくことが重要であり、そうした基盤を確立した上で、さらに住民生活の質の向上に向けた情報化の推進を図ります。

利用する側についても、生命や人権の尊重など一定のルールのもと、ITを活用していくことが要求されることから、社会全体で規範意識の確立に努めます。

また、電子政府・電子自治体に向けたさまざまなシステムづくりが進んでいますが、これらは、住民のニーズを十分に反映しながら構築していくことが重要であり、真に住民サービスの向上につながる情報化をめざします。

2．IT最先端都市の実現と活力ある情報社会の形成

本町は、全国的にみても人口増加率が高く、また、情報化に関しても、関西文化学術研究都市によって各種研究機関が立地しているなど、インフラ面や人材面などにおいて、他のまちと比較して恵まれた環境にあり、ITの最先端都市としての可能性を持っています。

こうした知が集積された環境を生かして、ベンチャー企業の育成などといった産業振興に取り組むとともに、学校教育での情報教育の充実や地域におけるITリーダーの養成など、人材の育成を図ります。

住民の誰もがITを積極的に活用することで、人や地域のつながりが強化され、さまざまな活動がより広がりのあるものになるよう、IT最先端都市の実現と活力ある情報社会の形成をめざします。

3．誰もが容易に利用できるユビキタス環境とコミュニティづくり

ITが暮らしの中に浸透していく中で、情報通信機器の操作などに不安を抱える人々への対応が求められています。また、インターネットなどのネットワーク環境の中において、情報の利用が日常的になる一方で、個人情報の流出や家庭・職場などでコンピュータウイルスの脅威にさらされるなどさまざまな危険性を秘めており、いつでも安心して利用できる情報環境が不可欠となってきます。

パソコンをはじめとした情報家電や携帯機器などあらゆる機器を利用して、いつでも、どこでも、誰もがITの利便性を享受できるユビキタス社会への実現に向けては、技術面での改良だけでなく、身近な場所で相談やサポートが受けられる仕組みづくりなど、地域全体での取り組みを進めます。

そして、安全性を重視した情報化の推進と誰もがITを活用して多様なコミュニケーションがとれる社会づくりをめざします。

めざすべき情報都市像

